

広報

# おやすみ

2018

8

No.163

「涼」



# がんばる大洲っ子

ふとうふくつ  
不撓不屈の精神で

大洲平野中学校3年

白石航太さん



将来の夢は、理学療法士になることです。きっかけは、祖父がリハビリで頑張っている時に、理学療法士の先生が祖父の再スタートのために一生懸命に取り組んでいる姿を見て、こんな素晴らしい仕事に就けたらいいなと思いました。これからは、受験に向けて不撓不屈の精神で進んでいきたいと思えます。

僕は、歴史に興味があり、特に江戸時代から明治時代の開国の大変遷時代が大好きです。今の日本の分岐点ともいえるその時代は、現在の日本を創造した激動の時期だったと感じています。地元では、里下獅子保存会の太鼓に、幼稚園年中から中学1年まで参加していました。今では大人に交じって、獅子の頭を演じています。地元を100軒以上伺って獅子舞を披露することも楽しいのですが、獅子舞という歴史ある伝統芸能に関われていることをうれしく思っています。

## 8月の納税など 納期限は8月31日金です。

税別	8月	9月	10月	11月
市県民税	2期		3期	
固定資産税		3期		4期
軽自動車税				
国民健康保険税	2期	3期	4期	5期

市税などの納付は、便利で安心な「口座振替」を。

## 現在の大洲

	人の動き(先月比)	交通事故(昨年同期)
人口	43,825人 (-29)	件数 46件(43件)
男	20,921人 (-6)	死者 0人(2人)
女	22,904人 (-23)	負傷者 64人(49人)
世帯数	20,061世帯(-9)	

(2018年6月末現在)

## CONTENTS 目次

2ページ	がんばる大洲っ子・今月の表紙
3ページ～	(特集)登校しづらいお子さんのために……
8ページ～	おおずニュース
13ページ～	シリーズ
14ページ～	おしらせピックアップ
22ページ～	情報ひろば
24ページ	集まれ0級若モン
25ページ～	図書館・保健センター・各種相談ガイド
28ページ	がんばるひと (NPO法人造形アートステージ・ケルベルネージュ)

## 今月の表紙



「御幸の橋」は、ケヤキを主な材料とし、釘を一切使用していない県指定有形民俗文化財です。盛夏の中で、涼をとることができる最高のスポットとなっています。

### 【お詫び】

広報おおず7月号19ページでお知らせした「後期高齢者医療制度について」のなかで、一人当たりの保険料の計算に用いる所得割率の値を9.16%と掲載していましたが、8.78%の誤りでした。お詫びのうえ、訂正させていただきます。

(特集)

# 登校しづらいお子さんのために……

おおず ふれあい スクール



独立行政法人 国立青少年教育振興機構  
国立大洲青少年交流の家  
大洲市教育委員会

学校に登校しづらいお子さんのために、学校復帰を支援する適応指導教室「おおずふれあいスクール」が大洲市に設置されています。

## 〈おおずふれあいスクールの紹介〉



です。また、16歳から22歳までの引きこもりがちな青年も対象としています。

—「おおずふれあいスクール」では、何をしているのですか—

▽不登校および不登校傾向にある児童生徒に対しては、学校や関係機関などとの連携を図りながら、基礎学力の補充、学校復帰への支援を行っています。

▽ひきこもりがちな青年に対しては、社会的自立を促し、就労に向けた支援を行っています。

▽自己の存在感を実感させ、精神的に安心できる場所（心の居場所）の提供を行っています。

—どんな施設ですか—  
平成9年1月、大洲市教育委員会と国立大洲青少年交流の家（旧国立大洲青少年の家）との共催により、開設された不登校対応の「適応指導教室」です。

—費用（学費）は必要ですか—  
民営のフリースクールではないので、学費などの費用は、必要ありません。ただし、見学料や調理実習の材料代などについては、実費を徴収します。

—どのような子どもが対象ですか—  
対象は、大洲市および近隣地区の小学校、中学校、高等学校に在籍し、主として心理的・情緒的な理由で不登校状態にある児童生徒

です。また、16歳から22歳までの引きこもりがちな青年も対象としています。

—「おおずふれあいスクール」では、何をしているのですか—  
金曜日は、「学校チャレンジデー」で、状態を見ながら、学校復帰を目指して学校への登校を促しています。

—日程はどうなっていますか—  
午前中は、「スタディタイム」として、学校在学中の児童生徒には、基礎学力の補充を図っています。

青年は、興味・関心に応じた活動を選択し、自主的に取り組んでいます。自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動する能力を育てるとともに、趣味や特技の伸長を図り、一人ひとりの「自立」を促していきます。

午後は、「ふれあいタイム」で、児童・生徒・青年ともに多様な体験活動を行っています。

—開所日はいつですか—  
原則、月曜日から木曜日までの

—開所日はいつですか—  
原則、月曜日から木曜日までの

① 自然体験活動  
自然の厳しさや恩恵を知り、動植物に対する愛情を培うなど、自然や生命への畏敬の念を育て、自然と調和していくことの大切さを理解させるようにしています。この活動を通して、豊かな人間性とたくましい心身を育み、一人ひとりの「生きる力」を育てます（農園体験、園芸体験、ネイチャーウォーク、カヌーなど）。

② 社会体験活動  
仲間とふれあい、自らをただしつつ、協調性を育てるとともに自己の長所や能力を発見し、感動する心など豊かな心を育てます。また、今までの自分を見つめながら、これからの生き方について考え、たくましく生きる力を養うとともに



カヌー体験



に、自立への力を育てます（宿泊体験活動、職場体験活動、社会見学など）。



社会見学

### ③ 文化・スポーツ体験活動

講師は外部より専門家を招き、ルールやマナーを身に付けさせ、コミュニケーション能力の育成を図りながら、自分らしさを表現するとともに社会性を育てます。また、心身を鍛え、たくましく生きるための健康・体力を維持増進し、主体的に生活する意欲を育てます（バドミントン、卓球、テニス、ヨガ、陶芸、茶道、英会話、読み聞かせ、専門委員との活動など）。



陶芸体験



調理実習

## 【通所した生徒や保護者の感想】

### 現役定時制高校生 Aさん・Bさん

2人とも、高校進学後、1年で退学した。その後、おおずふれあいスクールに登録し、通所した。

次年度に、定時制高校に入学し、ほとんど毎日通学している。高校入学後、数回訪ねてきて、「高校が楽しい。勉強も楽しい。クラスの雰囲気もよく、みんなで3年間で卒業しようと励まし合って頑張っている」と話した。一緒に通所していた2人組で、定時制・通信制の県体育大会に出場して3位となり、新聞にも掲載された。

### 現役高校生 Cさん

中学校1年の時から通所し、「中学校3年生になったら完全に学校復帰する」という目標を立てて頑張った。中学校3年生の時には学校復帰を果たし、現在は高校に進学している。「高校はとても楽しく、毎日元気に通学している。スクールがあったから、今がある」と話している。

### 社会人 Dさん

中学校で通所した後、高校へ進学・卒業し、現在働いている。「スクールに通わなかったら、今も家にいたと思う。スクールではいろいろな人と会

うことができ楽しかった」と言ってくれた。

### 現役大学生 Eさん

「ここで、友人との関係性を学んだ。おかげで友人と楽しく過ごせたため、高校に進学することができた。高校の時にも疲れた時は、充電するため通所していた。そして今、大学に進学して楽しい大学生活を送っている」と話した。

### 社会人 Fさん

小学校から5年間通所し、現在は就職して働いている。「将来は、おおずふれあいスクールで働きたいので、そのためにいろいろなスキルを身に付けたいと思っている。ふれあいスクールに通っていなかったら、引きこもっていたと思う」と言っている。

### 保護者(父) Gさん

子どもが中学校卒業後に来所し、「おおずふれあいスクールがなかったら、今頃どうなっていたか想像できない。進学することもでき、将来を見通せるようになったのは、ふれあいスクールでいろいろなことを体験し、前向きになったからだ。感謝している」と話した。

# 全国および大洲市における不登校の状況

## 【不登校の状況】

		H25	H26	H27	H28	H29
小学校	全 国(人)	24,175	25,866	27,581	31,151	
	出 現 率(%)	0.36	0.39	0.42	0.48	
	大 洲(人)	5	8	3	5	4
	出 現 率(%)	0.22	0.35	0.13	0.23	0.19
中学校	全 国(人)	95,442	97,036	98,428	103,247	
	出 現 率(%)	2.69	2.76	2.83	3.01	
	大 洲(人)	20	24	18	15	14
	出 現 率(%)	1.49	1.82	1.45	1.26	1.24

(全国データは平成28年度末現在)

## 【不登校の定義】

何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくともできない状況にあるために、年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的理由による者を除いたもの。(文部科学省)

## 【小学校の状況】

全国では、平成25年度から総数が増加し、平成28年度に3万1151人の不登校児童がいました。平成28年度の全国出現率は0・48パーセントで、およそ200人に1人が不登校になった計算となります。

大洲市では、平成26年度が出現率0・35パーセントで全国並みとなりましたが、それ以外は0・13〜0・23パーセントとなり、全国に比べ半分程度の低い値となっています。

## 【中学校の状況】

中学校になると、小学校に比べ出現率が高くなり、全国では毎年不登校生徒が増え続け、平成28年度には10万人を越え出現率も3・01パーセントとなりました。これは、100人中3人が不登校であることを示していて、1クラス40人の場合、約1〜2人の不登校生徒がいることとなります。これは、不登校になってしまふことが決して珍しいものではなく、どこの学校、学級でも起こりうることを示



終業式

しています。

大洲市では、平成26年度から減少傾向を示し、出現率も全国の半分程度となっています。

さらに、大洲市では病欠は含まれていないので、実際には全国の出現率の3分の1程度となっています。

## 【大洲市としての取り組み】

大洲市小中学校教職員は、以前から専門の医者や関係機関の協力を得て、いじめや不登校について

研修を深め、不登校を未然に防ぐための工夫や不登校の児童生徒への対応の仕方などを学んでいます。また、実際に不登校になった本人や保護者の負担を減らすため、この「おおよすふれあいスクール」において、地域の不登校の子どもたちを対象に、適応指導教室として運営しています。

## 3人の先生の話

### 生徒について

Aさんは、人間関係などで疲れ切って学校に行けなくなり、相談に来ました。しかし、次の日には、バドミントンをみんなで楽しみました。「こんなに笑ったのは、久しぶり。笑ってすっきりした」と話しました。次の日から学校に登校できています。たった2日間の休養でしたが、エネルギーが充電されたようです。

大人になって訪ねてきたBさんは、ふれあいスクールに中学校1年生から8年間通所し、高校の別室登校を経て20歳で卒業しました。現在は就職して働いています。「今度、車を買って替えることになった。そのためにしっかりと働かなくては……」と話しました。金銭感覚もすっかり身に付けてきて頼もしく感じました。

Cさんは、小学校4年生で不登校となり、中学校1年からここに通い始めました。現在中学校2年

生ですが、保健室登校ができるようになりました。少しずつ頑張っている姿がうれしいです。

Dさんは、中学校2年の時には登校できず、ふれあいスクールに毎日通所しました。中学校3年生の時には、月に1、2回、リフレックシユするため通所しました。現在は、高校に進学し、毎日元気に登校しています。振り替え休業で学校がお休みの日に来所し、楽しい学校生活についていろいろと話してくれました。



### 連携しています

一人ひとりの心に寄り添いながら面談を行ったり、所属学校と情報を共有したりしながら個に合った支援を行っています。学校復帰につながるように互いに連絡を密にし、本人や保護者、学校の共通理解のもとで支援していきたいと考えています。

### 私たちの願い

登校しづらくなったお子さん、引きこもっているお子さんがいる家庭では、本人も保護者も、悩んでいると思います。私たちは、お子さん、保護者の思いを十分に聞き、より良い方向を探っていききたいと思っています。

「おおずふれあいスクール」への通所がきっかけで、学校復帰・社会的自立を果たした人が数多くいます。私たちは、「学校への橋渡し」、「社会への橋渡し」をしたいと考えています。すべての子どもたちがこの国の未来を創るかけがえのない存在です。悩んでいる人は、どうか、いつでも結構です。で、相談や見学にお越しください。

私たちは、子どもたちと活動する中で、「笑う」ことが子どもにも大人にも一番大切だと感じています。「笑顔」で帰っていただければ、全力で支援したいと思っています。

### 【問い合わせ先】

〒795・0001

大洲市北只1086

国立大洲青少年交流の家内

おおずふれあいスクール

☎241414



お子さんの登校について悩みをお持ちの保護者の会

「たんぽぽの会」を毎月最終金曜日午前10時からおおずふれあいスクールで開催しています。